

かながわけんとうじしゃめせん しょうがいふくしすいしんじょうれい い しゃがい めざ
「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して」
もと きほん けいかく しひょう
に基づく基本計画の指標について

1 ほんけいかく しひょう
本計画の指標について

れいわ ねん がつ さくてい かながわけんとうじしゃめせん しょうがいふくしすいしんじょうれい
令和6年3月に策定した「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～
もに生きる社会を目指して～に基づく基本計画」のなかに計画の達成度を
あらわ すうち しひょう せつてい
表す数値として「指標」を設定しています。

げんじょう けんみん ちょうさ なか しつもん しひょう せつてい
現状では県民ニーズ調査の中にある質問を指標のひとつとして設定して
います。とうじしゃ めせん た あら しひょう ひつよう かんが すみ
ますが、当事者の目線に立った新たな指標が必要と考えられ、速やかに
せつてい
設定することとしています。

(1) けいかく きさい ぼっすい
計画の記載（抜粋）

ほんけいかく たっせいど しょうちょうてき あらわ すうち
本計画の達成度を象徴的に表す数値であり、この数値が目標に近づくにつれて、県が目指す「誰
もがいのちを輝かせて暮らすことのできる地域共生社会」の実現に近づいていると考えられます。

けん けん じつし いしきちょうさ けんみん ちょうさ しょうがい ひと みじか ふつう せいかつ
県では、県が実施する意識調査「県民ニーズ調査」の「障害のある人が身近で普通に生活している
のが当たり前と思う割合」の2023年度実績値を約3%上回ることを目指し、本計画の指標として設定し
ます。

しょうがいたうじしゃ めせん た あら しひょう ひつよう かんが しょうがいたうじしゃぶかいたう だ
また、障害当事者の目線に立った新たな指標が必要であると 考え、障害当事者部会等 で出された
「普通の生活に不自由がないと思える割合」や「生活のしづらさに関する指標」等の指標案について、
こんご さら ぎろん すず せつてい
今後も更に議論を進め、速やかに設定していくこととします。

はあく じょうきょう 把握する状況	げんじょうち 現状値	もくひょうち 目標値
しょうがい ひと みじか ふつう せいかつ 障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前と おも わりあい 思う割合	92.4% (2023年度)	95% (2027年度)
しょうがいたうじしゃ めせん た あら しひょう けんとう 障害当事者の目線に立った新たな指標（検討 ちゅう 中）	げんじてん 現時点では みせつてい 未設定	げんじてん 現時点では みせつてい 未設定

(2) しひょう かくにんじこう
指標のイメージ（確認事項）

とうじしゃぶかい いけん ふ ま え しひょう しょう しゅべつ ねんれい かか
当事者部会からの意見を踏まえ、指標は「(障がい種別や年齢に関わら
ない) 目指すべき大きな目標」とします。

(参考：指標とは物事の判断や評価基準となる目指を設定すること)

な お、 じりつしえんきょうぎかい とうじしゃ さんかく さんかとう けいかく すうち
なお、自立支援協議会へ当事者の参画やイベント参加等は計画の「数値
もくひょう
目標」のなかで達成度を確認します。

(3) がつ にち とうじしゃぶかい だ いけん
7月30日の当事者部会 で出された意見

ア しひょう あん
指標の案

- ・ マイナスの表現の方がわかりやすい（例：不便を感じる、危険を感じる等）
- ・ 人は嫌なことについては、覚えていることが多い、よかったことについては、意外と忘れてしまうことが多いと思う
- ・ ポジティブな方を言わされている感じの部分がどうしても出てきてしまう
- ・ 自分がその不安な部分が多少あっても、でもここにはポジティブな文章しか書いてないからまあいいや、みたいなどころが出てきてしまうのではないか
- ・ 事務局案2つのうち、すでにある指標との整合性を考えた場合、障害があっても普通に生活していて不自由がないと思える割合、が適切ではないか

イ 指標の数

- ・ 新たに加えるものは1つ

ウ 調査

- ・ 病院にアンケートを取れないか
 - ・ 家族を新しい枠として算定してみたらどうか
- ヤングケアラーとか8050問題や、家族を取り巻く問題があるので

【指標案】

- ・ 障害のある人が生活をするにおいて不便を感じたり、危険を感じる割合
- ・ 障害があっても普通に生活していて不自由がないと思える割合
- ・ 自由記述欄を加える

2 調査方法について

(1) 調査対象者のイメージ

(令和5年3月末現在 2,763,124人)

たいしょうしゃ 対象者	うちわけ 内訳	にんずう 人数
とうじしゃ 当事者	しょうがいしゃでちょうしよゆうしゃ 障害者手帳所有者 (458,023人)、 はったつしょうがい しんき そうだんしゃ 発達障害 (新規の相談者 1,816人) こうじのうきのうしょうがい そうだんうけつけしゃ 高次脳機能障害 (相談受付者 1,762人)	690,781人

	していなんびょうかんじやじゆきゆうしやしょうしよじしや 指定難病患者受給者証所持者 (229,180人)	
かぞく 家族	とうじしや どうすう かんが 当事者と同数で考える	690,781人
しえんしや 支援者	とうじしや めい そうてい 当事者1名につき2名と想定	1,381,562人
さんこう (参考)	かながわけんみん けんみん ちょうさ たいしょうしや 神奈川県民 (県民ニーズ調査の対象者)	9,227,901人

ちょうさほうほう れい
(調査方法の例)

ほうほう 方法	ひよう 費用のかかるもの	かだい 課題
ゆうそう 郵送	いんさつだい おうふく ゆうそうひ 印刷代、往復の郵送費	けん こべつ ゆうそう こんなん 県から個別に郵送は困難
ちょうさいんはけん 調査員派遣	いんさつだい ちょうさこうつうひ にっとう 印刷代、調査交通費、日当	いたく ひつよう 委託が必要
インターネット	こうほうひよう 広報費用	じょうほう とうじしや とど 情報が当事者に届くか
はいか 配架	いんさつだい へんしんようゆうそうひ 印刷代、返信用郵送費	ちょうき ちょうさきかん ひつよう 長期の調査期間が必要

じむきょく ていあん
(2) 事務局からの提案

すでに設定してある指標は県民ニーズ調査を活用し調査を行っています。

新たに設ける指標については、同じ調査方法が望ましいと考えられるため、県民ニーズ調査を活用したいと考えています。

さんこう けんみん ちょうさ
参考：県民ニーズ調査

かながわけん けんみん いしき かしかん へんか たようか せいかつ てきかく
神奈川県では県民の意識・価値観などの変化や、多様化する生活ニーズを的確に把握し、その結果を施策に反映するため、毎年度「県民ニーズ調査」を実施しています。

けんみん ちょうさ きほんちょうさ かだいちょうさ
県民ニーズ調査には、「基本調査」と「課題調査」があります。

きほんちょうさ けんみん せいかつ けんせい いしき けいぞくてき ちょうさ
基本調査・・・県民の生活や県政についての意識を継続的に調査しています。

かだいちょうさ じぎ おう ちょうさ
課題調査・・・時宜に応じたテーマについて調査しています。

しひよう ちょうさ ちょうさ しょう
(指標の調査はこちらの調査を使用)

ちょうさほうほう ゆうそう しゅるい
調査方法は郵送、インターネットの2種類あります。